

2026年2月3日
株式会社 NTT ドコモ

「日経スマートワーク大賞 2026」テクノロジー活用力部門賞を受賞

株式会社 NTT ドコモ（以下、ドコモ）は、人的資産の充実とテクノロジー活用を通じて生産性、企業価値を高めている企業を表彰する「日経スマートワーク大賞 2026」において、継続的なイノベーションとテクノロジー活用力が高く評価され、「テクノロジー活用力部門賞」を受賞しました。2020 年の同部門の受賞に続き、二度目の受賞となります。

NIKKEI **Smart Work**

Awards 2026 テクノロジー活用力部門

「日経スマートワーク大賞」は、株式会社日本経済新聞社が全上場企業および有力な非上場企業を対象に実施した「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」の結果に基づき、外部審査委員会が働き方改革を基盤に「人材活用力」「人材投資力」「テクノロジー活用力」などを総合的に審査し、次世代をリードする企業を選出するものです。今回の調査は、2025 年 5 月～7 月に実施され、788 社（うち上場企業 728 社）が回答しました。

■受賞理由（「日経スマートワーク大賞 2026」の発表文から抜粋）

総合ランキングは星 4 つ半（偏差値 65 以上 70 未満）を獲得。評価軸 3 部門のうち、「人材投資力」「テクノロジー活用力」の 2 部門で「S++」を獲得した。テクノロジーに関わる全項目（テクノロジー導入・関連投資、先端的テクノロジー活用）で高スコアだった。AI による通信ネットワーク保守業務完全自動化の取り組みが、業務を大幅に効率化する先進的なテクノロジー活用として特に高く評価された。加えて「MR による現場業務の支援」「AI による調達物流配送の最適化」など、他社がまだ十分に取り組めていない施策を先進的に行っている点なども支持を集め、テクノロジー活用力部門での選出となった。

■関連する主な取り組み

1. AI による通信ネットワーク保守業務の完全自動化

AI と自動化技術を活用し、通信ネットワークの保守業務を「人手ゼロ」で実現するゼロタッチオペレーション（ZTO）を推進。国際ローミングサービスの保守において、障害対応の自動化により、復旧時間を最大 75% 短縮し、人的ミスも削減。夜勤廃止や業務効率化を通じて、社員がより付加

価値の高い業務に集中できる環境を整えています。

2. MR（Mixed Reality：複合現実）による現場業務の支援

現場作業の効率化と安全性向上をめざし、XR グラス「MiRZA」と MR 技術を用いた作業支援ソリューション「NTT XR Real Support」を導入。作業員は手順書や図面を視界に表示しながら作業でき、遠隔支援機能で本社や専門技術者がリアルタイムで現場をサポート。これにより、作業効率や安全性、技術継承が大きく向上しています。

3. AIによる商品の店舗配備の最適化

AI とビッグデータを活用し、スマートフォンやアクセサリの需要予測を高度化。店舗配備の精度向上により全国の在庫削減や欠品率改善、配備稼働削減を実現。社員は需給戦略や分析業務に集中でき、作業の削減と人的資本の高度活用を両立しています。

ドコモは今後も、先端技術を活用した業務改革を推進し、社員一人一人がより創造的かつ柔軟に働く環境づくりを通して、社会の持続性と企業の持続性の両方をめざすサステナビリティ経営を推進してまいります。

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 NTT ドコモ
経営企画部 サステナビリティ推進室
ML : esg-chousa-ml@nttdocomo.com